

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-257816

(43)Date of publication of application : 08.10.1993

(51)Int.Cl.

G06F 12/14

(21)Application number : 04-058048

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 16.03.1992

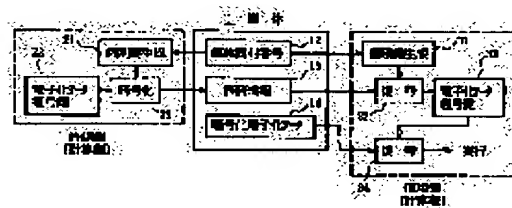
(72)Inventor : HASEBE TAKAYUKI
AKIYAMA RYOTA
YOSHIOKA MAKOTO

(54) ELECTRONIC DATA PROTECTION SYSTEM

(57)Abstract:

PURPOSE: To execute only software which is stored in a regular medium and permitted by giving the medium a medium characteristic number and giving the medium characteristic number the permission for the execution of the software.

CONSTITUTION: This system is provided with the medium 1 stored with ciphered electronic data 14, the medium characteristic number 12 characteristic to the medium, and permission information 13. On a permission side, a medium characteristic key based upon the medium characteristic number 12 is generated and the electronic data deciphering key for the ciphered electronic data 14 which are permitted with said medium characteristic key is ciphered and written as the permission information 13 on the medium 1. On a user side, the medium characteristic key is generated according to the medium characteristic number 12 read out of the medium 1, the read permission information 13 is deciphered with the medium characteristic key to generated the electronic data deciphering key, and the ciphered electronic data 14 are deciphered with the electronic data deciphering key to obtain the original electronic data.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 12.05.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3073590

[Date of registration] 02.06.2000

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-257816

(43)公開日 平成5年(1993)10月8日

(51)Int.Cl.⁵

G 0 6 F 12/14

識別記号

3 2 0 B

庁内整理番号

9293-5B

F I

技術表示箇所

F 9293-5B

審査請求 未請求 請求項の数7(全16頁)

(21)出願番号 特願平4-58048

(22)出願日 平成4年(1992)3月16日

(71)出願人 00005223

富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

(72)発明者 長谷部 高行

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地
富士通株式会社内

(72)発明者 秋山 良太

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地
富士通株式会社内

(72)発明者 吉岡 誠

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地
富士通株式会社内

(74)代理人 弁理士 岡田 守弘

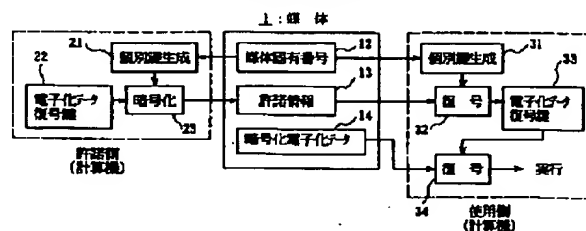
(54)【発明の名称】 電子化データ保護方式

(57)【要約】

【目的】 本発明は、電子化データ保護方式に関し、媒体に媒体固有番号を持たせ、媒体固有番号に対してソフトウェアを実行する許諾を与え、正規の媒体に格納され、かつ許諾の与えたソフトウェアだけ実行可能とすることを目的とする。

【構成】 暗号化電子化データ14、媒体固有の媒体固有番号12および許諾情報13を格納する媒体1を設け、許諾側で媒体1の媒体固有番号12をもとに媒体固有鍵を生成し、この媒体固有鍵によって許諾する暗号化電子化データ14の電子化データ復号鍵を暗号化して媒体1に許諾情報13として書き込み、使用側で媒体1から読み込んだ媒体固有番号12をもとに媒体固有鍵を生成し、この媒体固有鍵によって読み込んだ許諾情報13を復号して電子化データ復号鍵を生成し、電子化データ復号鍵によって読み込んだ暗号化電子化データ14を復号し、平文の電子化データにするように構成する。

本発明の原理構成図



【特許請求の範囲】

【請求項1】電子化データを保護する電子化データ保護方式において、

暗号化した暗号化電子化データ（14）、当該媒体固有の一意の媒体固有番号（12）および許諾情報（13）を格納する媒体（1）を設け、

許諾側でこの媒体（1）の一意の媒体固有番号（12）をもとに媒体固有鍵を生成し、この媒体固有鍵によって許諾する暗号化電子化データ（14）の電子化データ復号鍵を暗号化して上記媒体（1）に許諾情報（13）として書き込み、

使用側で上記媒体（1）から読み込んだ媒体固有番号

（12）をもとに媒体固有鍵を生成し、この媒体固有鍵によって読み込んだ許諾情報（13）を復号して元の電子化データ復号鍵を生成し、この電子化データ復号鍵によって読み込んだ暗号化電子化データ（14）を復号し、平文の電子化データにするように構成したことを特徴とする電子化データ保護方式。

【請求項2】上記1つの媒体（1）に格納する暗号化電子化データ（14）毎に異なる電子化データ復号鍵を対応づけ、

許諾側で使用を許可する暗号化電子化データ（14）の電子化データ復号鍵のみを上記媒体固有鍵によってそれぞれ暗号化して許諾情報（13）として媒体（1）に格納し、

使用側でこの媒体（1）に格納された許諾情報（13）に対応する暗号化電子化データのみを復号し得るように構成したことを特徴とする請求項第1項記載の電子化データ保護方式。

【請求項3】上記媒体固有の一意の媒体固有番号（12）を使用側で書き替え不可能な形態で書き込むように構成したことを特徴とする請求項第1項および第2項記載の電子化データ保護方式。

【請求項4】許諾側で上記許諾情報（13）のみを別個の媒体に格納し、使用側に提供するように構成したことを特徴とする請求項第1項から第3項記載の電子化データ保護方式。

【請求項5】許諾側から回線を介してあるいは用紙などに記載した上記許諾情報（13）を使用側に転送／送付し、使用側でこれをもとに上記媒体（1）から暗号化電子化データ（14）を復号するように構成したことを特徴とする請求項第1項から第4項記載の電子化データ保護方式。

【請求項6】上記暗号化電子化データ（14）として、計算機を動作させるソフトウェア、あるいは各種データ（文字、画像、音声データなど）を暗号化したことを特徴とする請求項第1項から第5項記載の電子化データ保護方式。

【請求項7】上記媒体（1）として、光磁気ディスクあるいはパーシャルROMを用いたことを特徴とする請求

項第1項から第6項記載の電子化データ保護方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、電子化データを保護する電子化データ保護方式であって、コンピュータのソフトウェアや電子出版物などの不正使用を阻止する電子化データ保護方式に関するものである。

【0002】ソフトウェアは一般的にコピーが容易である。また、これらの不正コピー行為は、頻繁に行われており、これがソフトウェアベンダーの正当な利益を阻み、その結果、ソフトウェアの価格も高めに設定せざるを得ないといった悪循環が生じている。

【0003】また、近年の電子出版物が盛んに出版されるようになってきており、著作権の問題は更に重要となり、これらのプログラムやデータの不正コピーを防止することが求められている。

【0004】

【従来の技術】従来、プログラムや電子出版物、特にソフトウェアを保護する保護方式として、図14に示すように、ユーザ固有のユーザ固有番号91を用いて許諾情報72を生成する方式がある。この従来の方式は、ユーザ固有番号91として例えば装置番号（計算機に付与された固有の装置番号）を用いる。ソフトウェアは、暗号化してソフトウェア格納媒体71に格納する。また、許諾情報72として、ユーザ固有番号91からユーザの固有鍵を生成し、この固有鍵でソフト復号鍵82を暗号化して当該許諾情報72を生成し、ソフトウェア格納媒体71に格納する。ユーザは、ソフトウェア格納媒体71に格納された暗号化ソフトウェア73と許諾情報72の販売を受けることにより、暗号化ソフトウェア73を平文のソフトウェアに復号し、これを実行する。以下図14の従来の構成および動作を簡単に説明する。

【0005】図14は、従来技術の説明図を示す。図14において、ソフトウェア格納媒体71は、暗号化した暗号化ソフトウェア73およびソフト復号鍵82を暗号化した許諾情報72を格納する媒体、例えば光磁気ディスクであって、ユーザが販売側から購入する対象の媒体である。

【0006】許諾情報72は、暗号化ソフトウェア73を復号して平文のソフトウェアにする情報であって、ソフト復号鍵82を暗号化したものである。暗号化ソフトウェア73は、ソフトウェアを暗号化したものである。

【0007】許諾情報の販売側には、個別鍵生成81、ソフト復号鍵82および暗号化回路83などがある。個別鍵生成81は、ユーザ計算機のユーザ固有番号（例えば装置番号）91をもとにユーザ固有の個別鍵を生成するものである。

【0008】ソフト復号鍵82は、暗号化ソフトウェア73を元の平文のソフトウェアに復号するための鍵である。暗号化回路83は、ソフト復号鍵82を、個別鍵生

10

20

30

40

50

成81によって生成したユーザ固有の個別鍵によって暗号化した許諾情報72を生成する回路である。

【0009】また、ユーザ側のユーザ計算機には、ユーザ固有番号91、個別鍵生成92、復号回路93、ソフト復号鍵94、および復号回路95などがある。ユーザ固有番号91は、ユーザ計算機が持つ固有の番号であって、例えば装置番号である。

【0010】個別鍵生成92は、ユーザ固有番号91をもとに、ユーザ固有の個別鍵を生成するものである。復号回路93は、購入したソフトウェア格納媒体71から読み出した許諾情報72を復号し、ソフト復号鍵94を生成するものである。

【0011】ソフト復号鍵94は、暗号化ソフトウェア73を復号して平文のソフトウェアに復号するための鍵である。復号回路95は、ソフト復号鍵94をもとに、ソフトウェア格納媒体71から読み出した暗号化ソフトウェア73を復号し、元の平文のソフトウェアにするものである。この平文のソフトウェアを、ユーザ計算機の主記憶にローディングし、実行する。

【0012】次に、動作を説明する。

(1) 許諾情報の許諾側は、ユーザ計算機の持つユーザ固有番号91をもとに、個別鍵生成81がユーザ固有の個別鍵を生成する。この生成した個別鍵をもとに、暗号化回路83がソフト復号鍵82を暗号化し、許諾情報72としてソフトウェアを暗号化した暗号化ソフトウェア73が格納されたソフトウェア格納媒体71に書き込む。

【0013】(2) ユーザは、(1)で許諾情報72および暗号化ソフトウェア73の書き込まれたソフトウェア格納媒体71を購入し、ソフトウェア格納媒体71をユーザ計算機に装着する。個別鍵生成92がユーザ計算機の持つ固有のユーザ固有番号(例えば装置番号)91をもとに、ユーザ固有の個別鍵を生成する。復号回路93がこの生成したユーザ固有の個別鍵をもとに、購入したソフトウェア格納媒体71から読み出した許諾情報72を復号し、ソフト復号鍵94を生成する。次に、復号回路95がこの生成したソフト復号鍵94をもとに、ソフトウェア格納媒体71から読み出した暗号化ソフトウェア73を復号し、平文のソフトウェアを生成する。この生成した平文のソフトウェアを主記憶にローディングし、実行する。

【0014】

【発明が解決しようとする課題】 上述した図14の構成の従来の保護方式は、ユーザ固有番号91を用いており、通常は計算機の固有番号あるいは携帯可能なハードウェアの固有番号を用いている。

【0015】計算機の固有番号を用いた場合には、許諾情報72は、計算機に対して実行の許諾を与えていることとなり、この計算機でしか実行できなくなるため、正当なユーザであっても、異なる計算機上では実行が不可

能となるという問題が生じている。また、ソフトウェアの譲渡もできない。

【0016】また、携帯可能なハードウェアの固有番号を用いた場合には、ハードウェア自体および計算機とのインタフェースを設ける必要があり、実施に伴うコストが増加するために実施が困難になるという問題が生じている。

【0017】本発明は、これらの問題を解決するため、電子化データの媒体に媒体固有番号を持たせ、この媒体固有番号に対して使用する許諾を与え、正規の媒体に格納され、かつ許諾の与えた電子化データのみ実行可能とすることを目的としている。

【0018】

【課題を解決するための手段】 図1は、本発明の原理構成図を示す。図1において、媒体1は、暗号化した暗号化電子化データ14、当該媒体固有の一意の媒体固有番号12および許諾情報13を格納するものである。

【0019】個別鍵生成21、31は、媒体固有番号12から媒体個別鍵を生成するものである。暗号化23は、媒体個別鍵によって電子化データ復号鍵22を暗号化するものである。

【0020】復号32は、媒体個別鍵によって許諾情報13を復号して電子化データ復号鍵33を生成するものである。復号34は、電子化データ復号鍵33によって暗号化電子化データ14を復号し、平文の電子化データを生成するものである。

【0021】

【作用】 本発明は、図1に示すように、媒体1に予め一意の媒体固有番号12と共に暗号化した暗号化電子化データ14を書き込んでおき、許諾側で個別鍵生成21が媒体の一意の媒体固有番号12をもとに媒体固有鍵を生成し、暗号化23がこの媒体固有鍵によって電子化データ復号鍵22を暗号化し、この暗号化したデータを媒体1に許諾情報13として書き込み、使用側で個別鍵生成31が媒体1から読み込んだ媒体固有番号12もとに媒体固有鍵を生成し、復号32がこの媒体固有鍵によって読み込んだ許諾情報13を復号して元の電子化データ復号鍵33を生成し、復号34がこの電子化データ復号鍵33によって読み込んだ暗号化電子化データ14を復号し、平文の電子化データにするようにしている。

【0022】また、1つの媒体1に格納する暗号化電子化データ14毎に異なる電子化データ復号鍵22を対応づけ、許諾側で使用を許可する暗号化電子化データ14の電子化データ復号鍵22のみを媒体固有鍵によってそれぞれ暗号化し、許諾情報13として媒体1に格納し、使用側でこの媒体1に格納された許諾情報13に対応する暗号化電子化データ14のみを復号し、平文の電子化データにするようにしている。

【0023】また、媒体固有の一意の媒体固有番号12を使用側で書き替え不可能な形態で書き込むようにして

いる。また、許諾側で許諾情報13のみを別個の媒体1に格納し、使用側に提供するようにしている。

【0024】また、許諾側から回線を介して許諾情報13を使用側に転送し、使用側でこれをもとに媒体1から暗号化電子化データ14を復号し、平文の電子化データにするようにしている。

【0025】また、暗号化電子化データ14として、計算機を動作させるソフトウェアあるいは各種データ（文字、画像、音声データなど）を暗号化するようにしている。従って、暗号化電子化データ14を格納する媒体1に一意の媒体固有番号12を書き替え不可能な形態で持たせ、この媒体固有番号12に対して電子化データを使用する許諾を与えることにより、正規の媒体1に格納され、かつ許諾の与えた暗号化電子化データ14のみの使用を可能とすることができると共に、媒体1に格納されている電子化データの譲渡を可能とし、別の電子計算機に当該媒体1を装填して使用することができる。

【0026】

【実施例】次に、図2から図13を用いて本発明の実施例の構成および動作を詳細に説明する。ここで、図1で説明した電子化データの例として、計算機に使用するソフトウェアを例に以下説明する。

【0027】図2は、本発明の1実施例構成図を示す。図2において、ソフトウェア格納媒体11は、許諾側が使用側に許諾するソフトウェアを格納する媒体であり、例えば光磁気ディスク（数百Mバイトないし数Gバイトの容量を持つディスク）などの媒体である。このソフトウェア格納媒体11には、図示のように、書き替え不可な媒体固有番号12、使用側にソフトウェアの許諾を与える許諾情報13、およびソフトウェアを暗号化した暗号化ソフトウェア15を格納する。

【0028】媒体固有番号12は、ソフトウェア格納媒体11に書き替え不可な一意な媒体固有の番号である。この媒体固有番号12は、ユーザが書き替え不可能な領域に書き込み、OSが管理するようにしてもよいし、また、OSといえども書き替え不可能な形で予め書き込んだり、一度書き込んだら修正不可のものでよい。

【0029】許諾情報13は、許諾側が使用側にソフトウェアの許諾を与える情報であって、ここでは、暗号化ソフトウェア15を復号する暗号データである（図6、図7を用いて詳述する）。

【0030】暗号化ソフトウェア15は、ソフトウェアを暗号化したものである（図3から図5を用いて詳述する）。許諾側の計算機には、個別鍵生成21、ソフト復号鍵24、暗号化23などを設ける。

【0031】個別鍵生成21は、ソフトウェア格納媒体11から読み出した媒体固有番号12をもとに媒体個別鍵を生成するものである（図6を用いて詳述する）。暗号化23は、個別鍵生成21によって生成された媒体個別鍵によって、ソフト復号鍵24を暗号化するものであ

る。この暗号化した暗号データは、ソフトウェア格納媒体11に許諾情報13として格納する。

【0032】使用側の計算機には、個別鍵生成31、復号32、ソフト復号鍵35、復号34などを設ける。個別鍵生成31は、ソフトウェア格納媒体11から読み出した媒体固有番号12をもとに媒体個別鍵を生成するものである（図6を用いて詳述する）。これは、許諾側の個別鍵生成21と同じ、媒体個別鍵を生成する。

【0033】復号32は、個別鍵生成31によって生成された媒体個別鍵により、ソフトウェア格納媒体11から読み出した許諾情報13を復号し、ソフト復号鍵35を生成するものである（図8を用いて詳述する）。

【0034】復号34は、ソフト復号鍵35によって、ソフトウェア格納媒体11から読み出した暗号化ソフトウェア15を復号し、平文のソフトウェアを生成するものである（図8を用いて詳述する）。この生成した平文のソフトウェアを実行する。

【0035】以下図2の構成および動作を順次詳細に説明する。図3は、本発明のソフトウェア格納時のフローチャートを示す。これは、ソフトウェアを作成して暗号化した暗号化ソフトウェア15および暗号化した許諾情報13を、ソフトウェア格納媒体11に格納する時のフローチャートである。

【0036】図3において、S1は、ソフトウェアを作成する。これは、メーカーがソフトウェア格納媒体に格納するソフトウェア（各種業務プログラム）を作成する。S2は、ソフトウェア暗号鍵の作成を行う。

【0037】S3は、ソフトウェアに対応づけ、暗号鍵管理テーブルに格納する。これは、S1で作成したソフトウェアのソフトウェア名と、S2で作成した暗号鍵とを、例えば図5のソフトウェア暗号鍵管理テーブル4に図示のように対応づけて格納し、統括して管理する。

【0038】S4は、指定したソフトウェアに対応したソフトウェア暗号鍵の取り出しを行う。これは、ソフトウェア格納媒体に格納するソフトウェア名に対応するソフトウェア暗号鍵を、図5のソフトウェア暗号鍵管理テーブル4から取り出す。

【0039】S5は、S4で取り出したソフトウェア暗号鍵で、平文のソフトウェアを暗号化し、暗号化ソフトウェアを生成する。これは、例えば図4に示すように、作成したソフトウェア名とソフトウェア本体のうちソフトウェア本体の部分、暗号化鍵によって暗号化を行い、図示のようにソフトウェア名と暗号化ソフトウェア本体を作成する。このときの暗号は、DESなどを用い、下段に説明したように、換字とビット転置を繰り返して暗号化する。

【0040】S6は、メーカー側の格納媒体に暗号化ソフトウェアを格納する。これにより、一度暗号化した暗号化ソフトウェアを保存し、次回以降は、この保存した暗号化ソフトウェアを取り出し、暗号化を省略する。

【0041】S7は、暗号化ソフトウェアを読み込み、ソフトウェア格納媒体11に格納する。S8は、ソフトウェア格納媒体11に格納する暗号化ソフトウェアが終わったか判別する。YESの場合には、終了する。NOの場合には、S7を繰り返し行い、指示されたソフトウェア名の暗号化ソフトウェアをソフトウェア格納媒体11に順次格納する。

【0042】以上によって、ソフトウェアを作成してこれを暗号化した暗号化ソフトウェアにし、これをソフトウェア格納媒体11に格納する。図4は、本発明のソフトウェアの暗号化の例を示す。

【0043】図4の(a)は、ソフトウェアの暗号の様子を示す。ここで、ヘッダには、識別子としての役割を行うソフトウェア名などを格納する。このヘッダは、暗号化の対象としない。ソフトウェア本体は、暗号化の対象とし、暗号化鍵によって暗号化して暗号化ソフトウェア本体を作成する。このときの暗号化は、例えば図示のように、DES(Data Encryption Standard)を用いる。このDESは、換字とビット転置を繰り返し、暗号を行う。

【0044】図4の(b)は、暗号化の様子を示す。暗号化は、DESによれば、図示のように64bitのビット列について、暗号化鍵によって暗号化を行い、同じ64bitのビット列を生成する。復号は、復号鍵によって元の64bitのビット列に復号する。

【0045】図5は、本発明の暗号化ソフトウェアの格納例を示す。図5において、ソフトウェア暗号鍵管理テーブル4は、図3で既述したように、作成したソフトウェア名と、作成した暗号鍵とを対応づけて統括管理するテーブルである。このソフトウェア暗号鍵管理テーブル4には、ソフトウェアが暗号化されていることを表す“ENC”を付与したソフトウェア名と、それぞれ64ビットの暗号鍵をペアにして格納する。

【0046】以下動作を説明する。

(1) ソフトウェア格納媒体に格納しようとする平文ソフトウェアについて、ソフトウェア暗号鍵管理テーブル4からソフトウェア暗号鍵を取り出す。

【0047】(2) 暗号化回路41が渡されたソフトウェア暗号鍵によって、平文ソフトウェアを暗号化する。暗号化は、例えば図4のDESを用いて暗号化する。

(3) 暗号化した暗号化ソフトウェアをソフトウェア格納媒体11に図示暗号化ソフトウェア15として格納する。これを指定された全ての平文ソフトウェアについて終了するまで繰り返し行う。この際、一度、暗号化した暗号化ソフトウェアを保存すれば、次回以降からこの保存した暗号化ソフトウェアを取り出してソフトウェア格納媒体11に格納すればよい。また、媒体固有番号12は、既述したようにソフトウェア格納媒体11に固有な一意な番号であって、書き替え不可の形で書き込まれ

ている。また、ソフトウェア暗号鍵管理テーブル4に格納した暗号鍵は、暗号化のアルゴリズムに対象鍵番号を用いた場合には、復号鍵と当該暗号鍵とは一致する。

【0048】以上によって、平文ソフトウェアについて、ソフトウェア暗号鍵管理テーブル4から該当するソフトウェア暗号鍵を取り出し、これを用いて暗号化を行って暗号化ソフトウェアを作成し、ソフトウェア格納媒体11に格納する。

【0049】図6は、本発明の許諾情報の生成フローチャートを示す。これは、許諾しようとするソフトウェアの暗号化した許諾情報13を生成し、ソフトウェア格納媒体11に格納するフローチャートである。

【0050】図6において、S11は、許諾しようとするソフトウェア名を入力する。S12は、復号鍵管理テーブル5より、ソフト復号鍵を取り出す。これは、図7のソフトウェア復号鍵管理テーブル5から許諾を与えようとするソフトウェア名の復号鍵を取り出す。

【0051】S13は、媒体固有番号の取り出しを行う。これは、許諾情報を書き込もうとする、ソフトウェア格納媒体11の媒体固有番号を読み出す。S14は、媒体個別鍵の生成を行う。これは、右側に記載したように、ソフトウェア格納媒体11から読み出した平文の媒体固有番号12について、秘密鍵によって暗号化した媒体個別鍵を生成したり、あるいは平文の媒体固有番号12について、秘密アルゴリズムによって暗号化した媒体個別鍵を生成したりする。

【0052】S15は、媒体個別鍵によって、ソフト復号鍵を暗号化し、許諾情報を生成する。これは、右側に記載したように、平文のソフト復号鍵について、S14で生成した媒体個別鍵により暗号化し、許諾情報を生成する。

【0053】S16は、S15で生成した暗号化した許諾情報をソフトウェア格納媒体11に格納する。以上によって、暗号化ソフトウェア15を格納したソフトウェア格納媒体11から媒体固有番号12を読み出して媒体個別鍵を生成し、ソフト復号鍵についてこの媒体個別鍵で暗号化し、暗号化した許諾情報13を生成してソフトウェア格納媒体11に格納する。これにより、暗号化ソフトウェア15および暗号化した許諾情報13をソフトウェア格納媒体11に格納したこととなる。

【0054】図7は、本発明の許諾情報の生成説明図を示す。図7において、ソフトウェア復号鍵管理テーブル5は、暗号化ソフトウェア15を復号して平文のソフトウェアに復号する際に必要なソフト復号鍵を、ソフトウェア名に対応づけて管理するものである。このソフトウェア復号鍵管理テーブル5には、図5で説明したソフトウェア暗号鍵管理テーブル4と同様の復号鍵を格納する。ここには、暗号化されていることを表す“ENC”を付与したソフトウェア名と、それぞれのソフトウェアに対応して64ビットのソフト復号鍵をペアに格納す

10

20

30

40

50

る。動作を説明する。

【0055】(1) 許諾情報を使用側に販売する場合、まず、ソフトウェア格納媒体11から媒体固有番号12を読み出す。この読み出した媒体固有番号12を個別鍵生成回路211に入力し、媒体個別鍵を生成する(図6のS14参照)。

【0056】(2) 次に、販売しようとするソフトウェアのソフト復号鍵をソフトウェア復号鍵管理テーブル5から取り出して暗号化回路231に入力し、媒体個別鍵で暗号化し、図示許諾情報13を生成する。この許諾情報13は、ENCという暗号化した旨を表す識別子を付与したソフトウェア名と、暗号化した許諾情報とをペアにし、ソフトウェア格納媒体11に許諾情報13として格納する。ここで、ソフトウェア復号鍵と、個別鍵生成回路211のアルゴリズム(あるいは秘密鍵)は、安全な手段によって保護する。

【0057】以上によって、許諾側は、ソフトウェア格納媒体11から読み出した媒体固有番号12をもとに媒体個別鍵を生成し、この媒体個別鍵をもとに、ソフト復号鍵を暗号化してソフトウェア格納媒体11に許諾情報13として格納する。

【0058】図8は、本発明のソフトウェア復号のフローチャートを示す。これは、使用側が購入したソフトウェア格納媒体11を計算機に装着し、ソフトウェアを主記憶にローディングして実行するときのフローチャートである。

【0059】図8において、S21は、ソフトウェアの実行命令を受け取る。S22は、ソフトウェア格納媒体11から媒体固有番号12の取り出しを行う。

【0060】S23は、媒体個別鍵の生成を行う。これは、右側に記載したように、S22でソフトウェア格納媒体11から取り出した媒体固有番号12について、秘密鍵により暗号化した媒体個別鍵を生成する。あるいは秘密アルゴリズムにより、媒体固有番号12から暗号化した媒体個別鍵を生成する。

【0061】S24は、S23で生成した媒体個別鍵で、ソフトウェア格納媒体11から読み出した許諾情報13を復号し、ソフト復号鍵を生成する。これは、右側に記載したように、S23で暗号化した媒体個別鍵で、暗号文である許諾情報13を復号化して平文のソフト復号鍵35を生成する。

【0062】S25は、ソフトウェア格納媒体11から暗号化ソフトウェア15の読み込みを行う。S26は、ソフト復号鍵で、S25で読み込んだ暗号化ソフトウェア15を復号し、平文のソフトウェアを生成する。これは、右側に記載したように、暗号文の暗号化ソフトウェア15について、S24で生成したソフト復号鍵35で復号し、平文のソフトウェアを生成する。

【0063】S27は、ソフトウェア実行する。以上によって、ソフトウェア実行命令に対応して、ソフトウェ

ア格納媒体11から取り出した媒体固有番号12から媒体個別鍵を生成し、この媒体個別鍵をもとにソフトウェア格納媒体11から取り出した許諾情報13を復元してソフト復号鍵35を生成し、このソフト復号鍵35によって、ソフトウェア格納媒体11から取り出した暗号化ソフトウェア15を復号して平文のソフトウェアを生成する。この平文のソフトウェアを主記憶にローディングし、実行することが可能となる。

【0064】図9は、本発明のプログラムの場合の説明図を示す。これは、電子化データとしてプログラムの場合の説明図である。図9の(a)は、全体構成図を示す。

【0065】図9の(a)において、光磁気ディスク6は、暗号化プログラムなどを格納するものであって、図2のソフトウェア格納媒体11に対応するものであり、媒体固有番号12、許諾情報13、および暗号化プログラム16を格納する媒体である。この光磁気ディスク6は、許諾側から購入し、光磁気ディスク装置に装着する。この光磁気ディスク6の他に、光ディスク、CD-ROM、FD、HD、磁気テープ、カセットテープなどの記憶媒体であってもよい。

【0066】プログラムローダ61は、プログラム命令実行時に、光磁気ディスク6から該当する復号したプログラムを主記憶63にローディングし、実行可能な状態にするものであって、ここでは、既述した鍵生成(個別鍵生成31)、復号(復号32、34)などを備えた処理部である。

【0067】主記憶63は、プログラムローダ61が光磁気ディスク6から取り出して復号した平文のプログラムを展開するためのRAM(読み書き可能なメモリ)である。

【0068】次に、図9の(b)のフローチャートに示す順序に従い、図9の(a)の構成の動作を説明する。図9の(b)において、S31は、プログラム命令実行を受け取る。

【0069】S32は、プログラムローダ61が実行プログラムを見つけて取り出し、復号する。S33は、主記憶上にメモリ展開する。これは、S32で復号した平文のプログラムを、主記憶63上に展開し、動作可能な状態にする。

【0070】S34は、プログラム実行する。S33で主記憶63上に展開された平文のプログラムを実行する。図9の(c)は、ユーザ計算機でのソフトウェア(プログラム)の実行説明図を示す。

【0071】(1) ユーザ計算機がソフトウェア格納媒体11から媒体固有番号12を取り出して個別鍵生成回路311に入力し、暗号化した媒体個別鍵を生成する(図8のS23参照)。

【0072】(2) 復号回路321が、ソフトウェア格納媒体11から取り出した図示のような許諾情報13

10

20

30

40

50

について、(1)で生成した媒体個別鍵により復号し、図示のようなソフトウェア復号鍵351(ソフト復号鍵351に対応する)を生成する。

【0073】(3) 復号回路341が、ソフトウェア格納媒体11から取り出した暗号化ソフトウェア15について、(2)で生成したソフトウェア復号鍵351により復号し、平文のソフトウェア(プログラム)を生成する。この平文のソフトウェア(プログラム)を主記憶63に展開し、実行する。

【0074】ここで、許諾情報13が格納されていない暗号化ソフトウェア15は復号することができず、実行不可能である。また、ソフトウェア格納媒体11を他の媒体の不正にコピーした場合には、媒体固有番号12が無い、あるいは異なるため、許諾情報13から正しいソフトウェア復号鍵351を復号できず、結果として暗号化ソフトウェアを平文のソフトウェアに復号できず、実行不可能である。尚、ユーザ計算機上では、個別鍵生成回路311のアルゴリズムあるいは秘密鍵、生成したソフトウェア復号鍵、復号した平文ソフトウェアは安全な手段によって保護する。

【0075】図10は、本発明のデータの場合の説明図を示す。これは、電子化データとしてデータ、例えば出版物などの文字データ(テキスト)、記号、画像データ、更に音声データなどの場合の説明図である。

【0076】図10の(a)は、全体構成図を示す。図10の(a)において、光磁気ディスク6は、暗号化データなどを格納するものであって、図2のソフトウェア格納媒体11に対応するものであり、媒体固有番号12、許諾情報13、および暗号化データ17を格納する媒体である。この光磁気ディスク6は、許諾側から購入し、光磁気ディスク装置に装着する。この光磁気ディスク6の他に、光ディスク、CD-ROM、FD、HD、磁気テープ、カセットテープなどの記憶媒体であってもよい。

【0077】R/Wモジュール64は、リード命令実行時に、光磁気ディスク6から該当する復号したデータを主記憶63に格納するものであって、ここでは、既述した鍵生成(個別鍵生成31)、復号(復号32、34)などを備えた処理部である。

【0078】主記憶63は、R/Wモジュール64が光磁気ディスク6から取り出して復号した平文のデータを格納するためのRAM(読み書き可能なメモリ)である。次に、図10の(b)のフローチャートに示す順序に従い、図10の(a)の構成の動作を説明する。

【0079】図10の(b)において、S41は、アプリケーション実行する。S42はデータ読み込み命令を実行する。S43は、R/Wモジュール64がデータを見つけ、読み込み復号する。

【0080】S44は、主記憶上に格納する。S45は、データの表示、再生を行う。以上によって、S42

でデータの読み込み命令があったときに、R/Wモジュール64が、光磁気ディスク6から暗号化データ17を取り出して復号して平文のデータを生成し、これを主記憶63に格納する。そして、主記憶63から取り出してディスプレイ上に出版物の文字列として表示したり、画像を表示したり、音声として発生したりする。次に、R/Wモジュール64の動作を詳細に説明する。

【0081】図10の(c)は、ユーザ計算機でのデータの表示/再生説明図を示す。

(1) ユーザ計算機がデータ格納媒体111から媒体固有番号12を取り出して個別鍵生成回路311に入力し、暗号化して媒体個別鍵を生成する(図8のS23参照)。

【0082】(2) 復号回路321が、データ格納媒体111から取り出した図示のような許諾情報13について、(1)で生成した媒体個別鍵により復号し、図示のようなデータ復号鍵352(ソフト復号鍵351に対応する)を生成する。

【0083】(3) 復号回路341が、データ格納媒体111から取り出した暗号化データ17について、

(2)で生成したデータ復号鍵352により復号し、平文のデータ(文字データ、画像データ、音声データなど)を生成する。この平文のデータを主記憶63に格納し、ディスプレイ上に出版物の文字列、画像、記号として表示したり、音声として発生したりする。

【0084】図11は、ROM/RAM混在型光磁気ディスクに適用した場合を示す。ROM/RAM混在型の光磁気ディスクは、図示のように、ユーザ書換え不可能な領域、読み書き可能領域、読み出し専用領域/読み書き専用領域がある。従って、これら領域に図示のように媒体固有番号12、許諾情報13、暗号化ソフトウェア15を格納する。これにより、ユーザ書換え不可能な領域に、媒体固有番号12を書き込むため、当該光磁気ディスクの固有な媒体固有番号を与え、本発明の保護を図ることができる。

【0085】図12は、本発明の許諾情報を他の格納媒体に格納する場合の例を示す。この場合には、図示のように、ソフトウェア格納媒体に固有な一意の媒体固有番号と、暗号化ソフトウェアのみを予め格納する。そして、許諾情報を別の許諾情報格納媒体に格納する。これは、CD-ROMなどの書き込む領域を持たない媒体に媒体固有番号および暗号化ソフトウェア(暗号化データ)を予め書き込んでおき、当該CD-ROMなどのうちの許諾を与える許諾情報を別の書き込み可能な許諾情報格納媒体(例えばFLOPPYなど)に書き込む場合の実施例である。

【0086】図13は、本発明の複数のソフトを1枚の媒体に格納する場合の説明図を示す。これは、複数のソフト(あるいはデータ)を1枚の大容量の媒体(光磁気ディスク、CD-ROMなど)に格納し、個別販売する

場合の実施例である。この場合には、ソフト復号鍵 1、2・・・Nについて、それぞれ媒体固有鍵によって暗号化した許諾情報 1、2・・・Nを生成してソフトウェア格納媒体 1 1 に格納する。そして、ユーザは、ソフトウェア格納媒体 1 1 に格納されている暗号化ソフト 1、2・・・Nのうち、購入希望のソフトウェア名を許諾情報販売側に通知すると、許諾情報販売側はソフトウェアに対応するソフト復号鍵を媒体固有番号から生成した媒体個別鍵で暗号化し、これを許諾情報としてソフトウェア格納媒体 1 1 に格納する。ユーザは、このソフトウェア格納媒体 1 1 を装着し、購入した暗号化ソフトウェアを復号して平文のソフトウェアにし、使用する。一方、ユーザは、許諾情報のないソフトウェアを利用しようとしても暗号化ソフトウェアを復号できず、使用できない。また、他のソフトウェア格納媒体 1 1 の許諾情報をコピーしても、ソフトウェア格納媒体 1 1 の媒体固有番号がコピーできないため、正しい復号ができない。これにより、ソフトウェアの個別販売を行うことが可能となる。

【0087】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、暗号化電子化データ 1 4 を格納する媒体 1 に一意の媒体固有番号 1 2 を書き替え不可能な形態で持たせ、この媒体固有番号 1 2 に対して電子化データを使用する許諾を与える構成を採用しているため、正規の媒体 1 に格納され、かつ許諾の与えた暗号化電子化データ 1 4 のみの使用を可能とし、不正使用を防止できる。また、媒体 1 に格納されている電子化データの譲渡を可能とし、別の電子計算機に当該媒体 1 を装填して使用したり、複数の電子化データを一枚の媒体に格納し、個別販売を行ったりすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の原理構成図である。

【図 2】本発明の 1 実施例構成図である。

【図 3】本発明のソフトウェア格納時のフローチャートである。

【図 4】本発明のソフトウェアの暗号化の例である。

【図 5】本発明の暗号化ソフトウェアの格納例である。

【図 6】本発明の許諾情報の生成フローチャートである。

【図 7】本発明の許諾情報の生成説明図である。

【図 8】本発明のソフトウェア復号のフローチャートで

ある。

【図 9】本発明のプログラムの場合の説明図である。

【図 10】本発明のデータの場合の説明図である。

【図 11】ROM/RAM混在型光磁気ディスクに適用した場合である。

【図 12】本発明の許諾情報を他の格納媒体に格納する場合の例である。

【図 13】本発明の複数ソフトを 1 枚の媒体に格納する場合の説明図である。

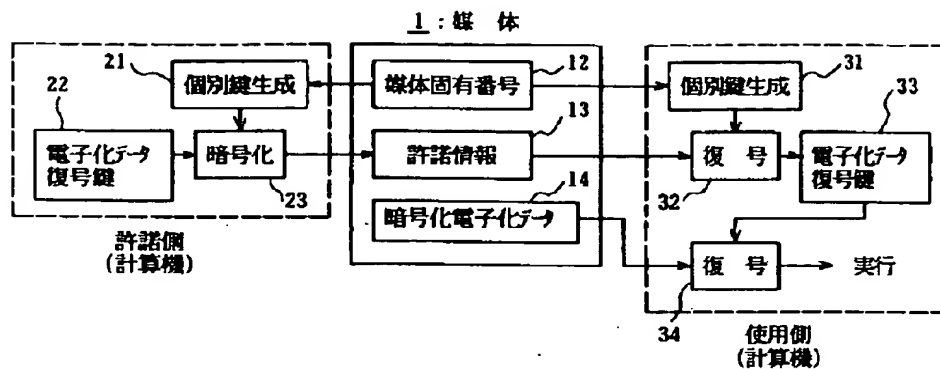
【図 14】従来技術の説明図である。

【符号の説明】

1 : 媒体
1 1 : ソフトウェア格納媒体
1 1 1 : データ格納媒体
1 2 : 媒体固有番号
1 3 : 許諾情報
1 4 : 暗号化電子化データ
1 5 : 暗号化ソフトウェア
1 6 : 暗号化プログラム
1 7 : 暗号化データ
2 1 : 個別鍵生成
2 1 1 : 個別鍵生成回路
2 2 : 電子化データ復号鍵
2 3 : 暗号化
2 3 1 : 暗号化回路
2 4 : ソフト復号鍵
3 1 : 個別鍵生成
3 1 1 : 個別鍵生成回路
3 2 : 復号
3 2 1 : 復号回路
3 3 : 電子化データ復号鍵
3 4 : 復号
3 4 1 : 復号回路
3 5 : ソフト復号鍵
3 5 1 : ソフトウェア復号鍵
3 5 2 : データ復号鍵
4 1 : 暗号化回路
6 : 光磁気ディスク
6 1 : プログラムローダ
6 3 : 主記憶
6 4 : R/Wモジュール

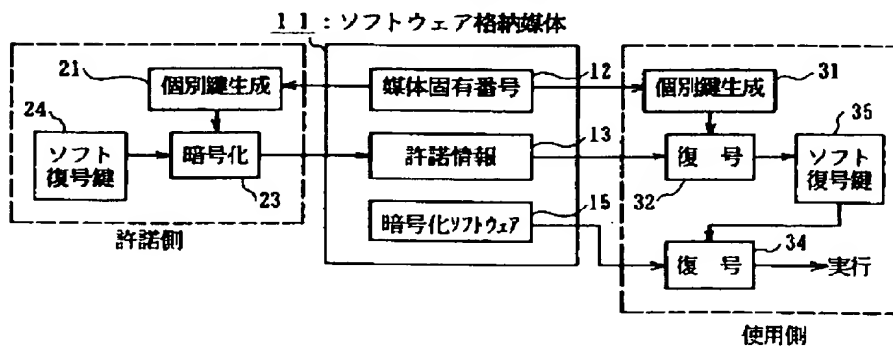
【図1】

本発明の原理構成図



【図2】

本発明の1実施例構成図



【図5】

本発明の暗号化ソフトウェアの格納例

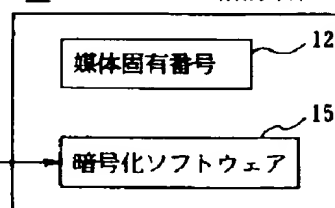
4: ソフトウェア暗号鍵管理テーブル

ソフトウェア名	暗号鍵
ABCDEFGH.ENC	5BEA45CD4EA2A986
HIJKLMN.ENC	89AE567CB4ED982A
⋮	⋮

平文ソフトウェア

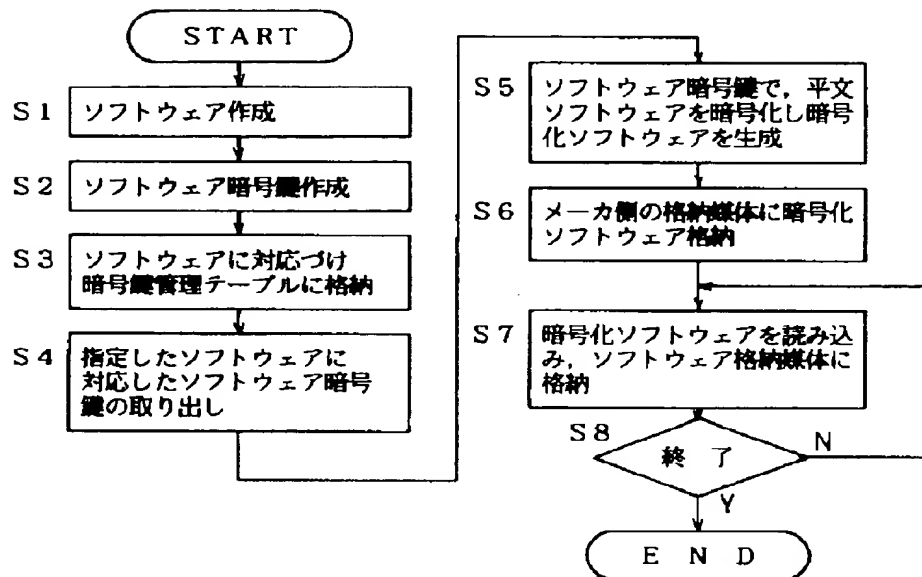
41
暗号化回路

11: ソフトウェア格納媒体



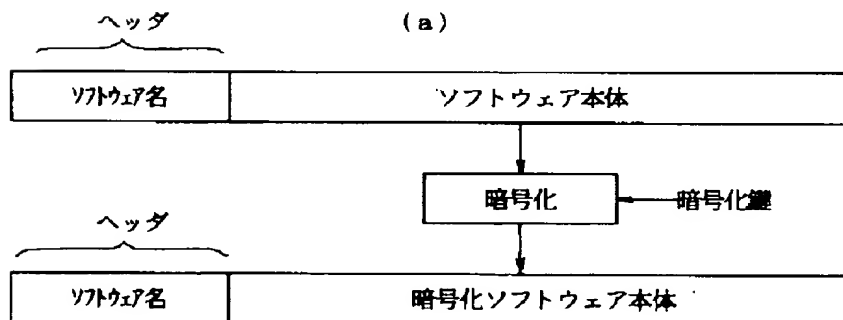
【図3】

本発明のソフトウェア格納時のフローチャート

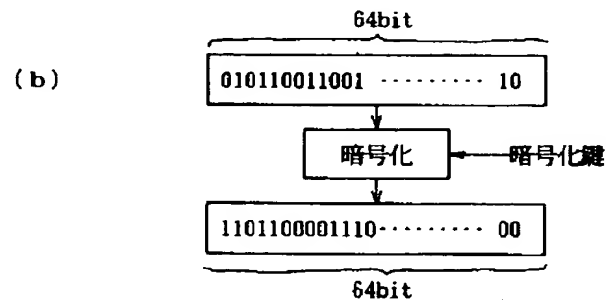


【図4】

本発明のソフトウェアの暗号化の例

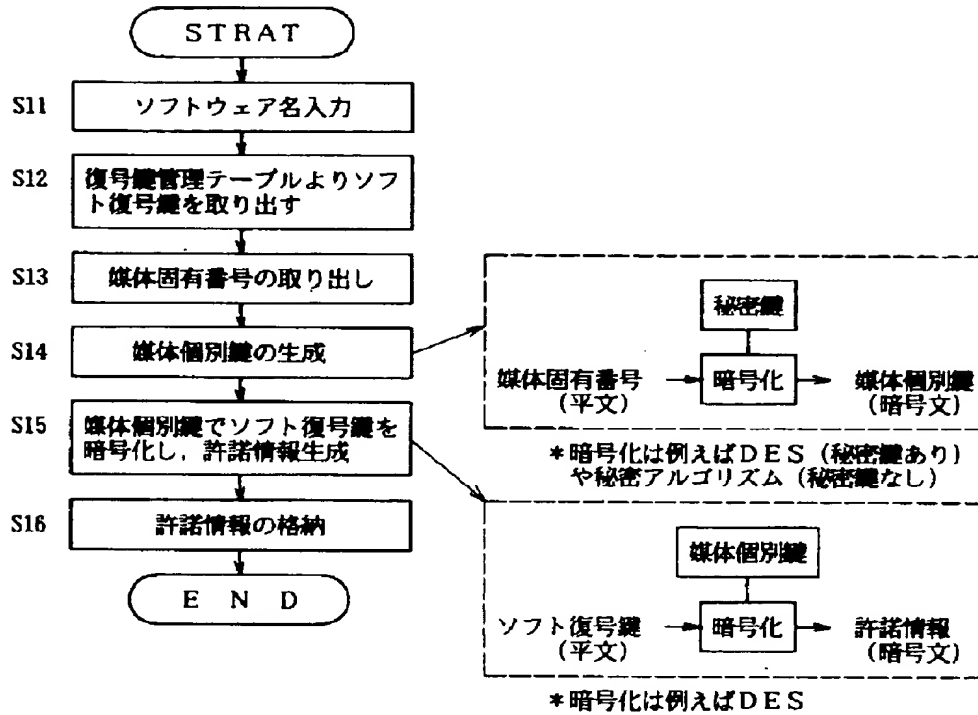


暗号化には、例えばDES(Data Encryption Standard)を用いる。
DESは、換字とビット転置を繰り返し、暗号化を行う。



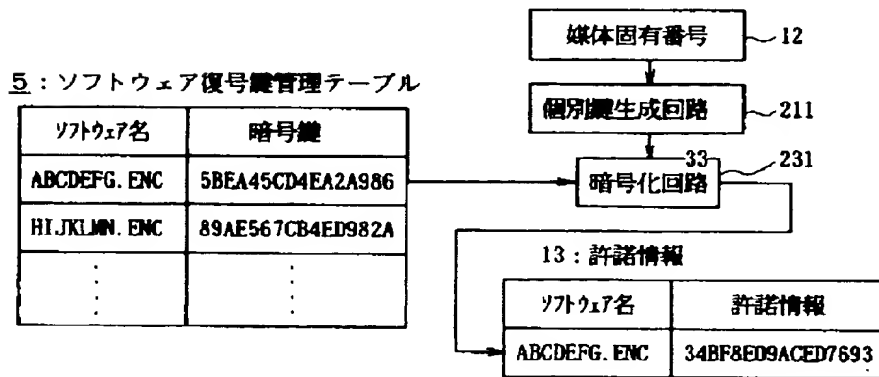
【図6】

本発明の許諾情報の生成フローチャート



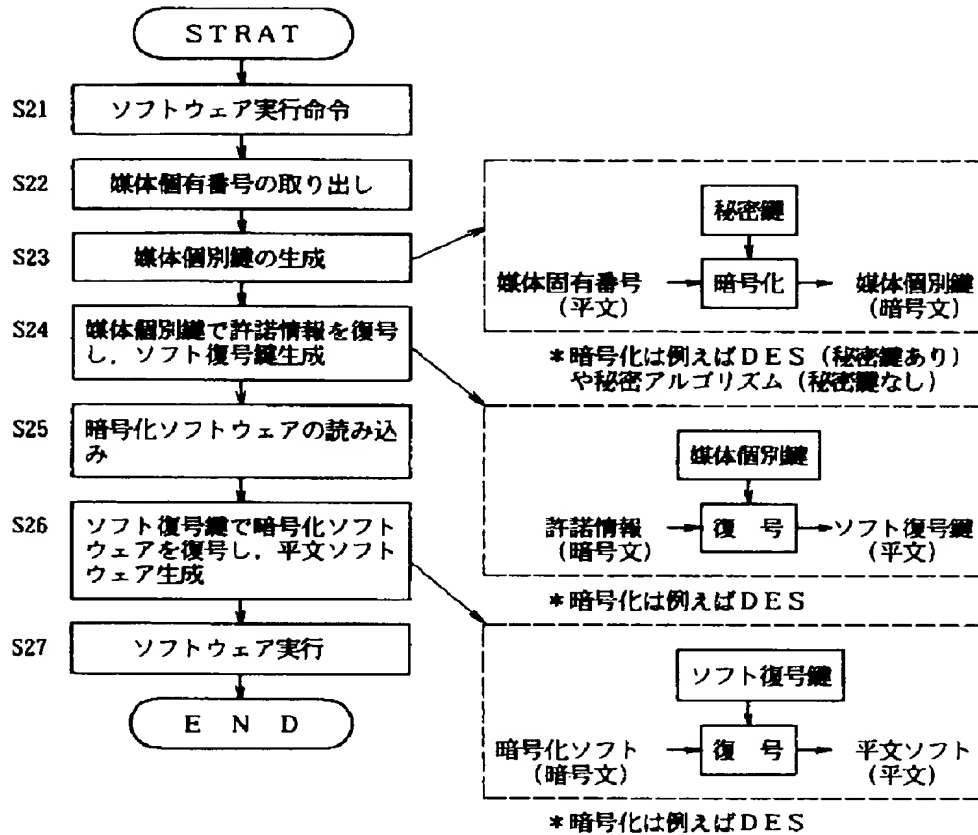
【図7】

本発明の許諾情報の生成説明図



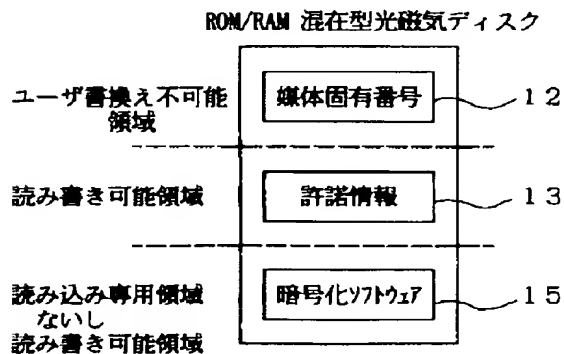
【図8】

本発明のソフトウェア復号のフローチャート



【図11】

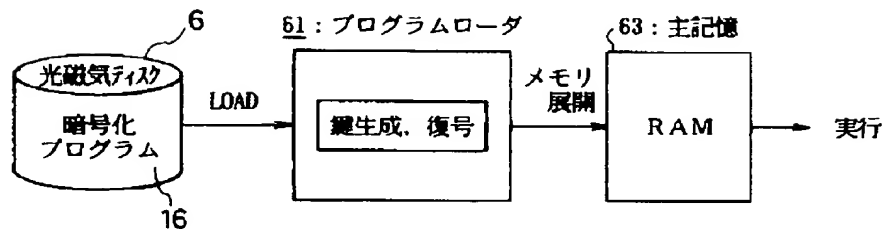
ROM/RAM 混在型光磁気ディスクに適用した場合



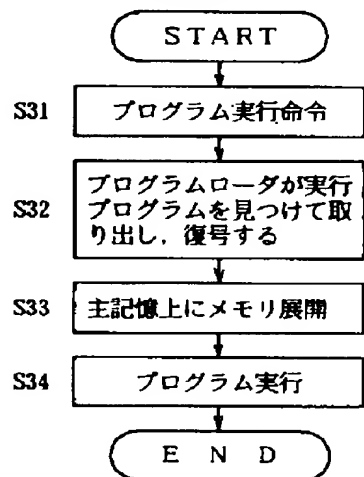
【図9】

本発明のプログラムの場合の説明図

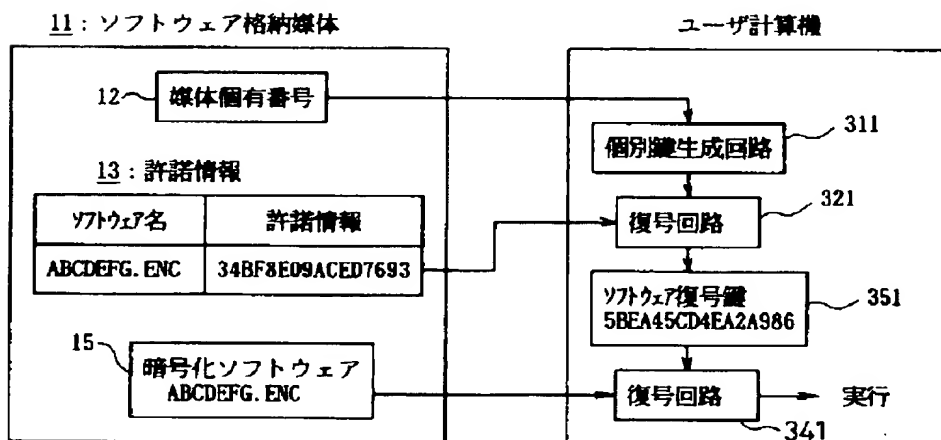
(a) 全体構成図



(b) 動作フローチャート



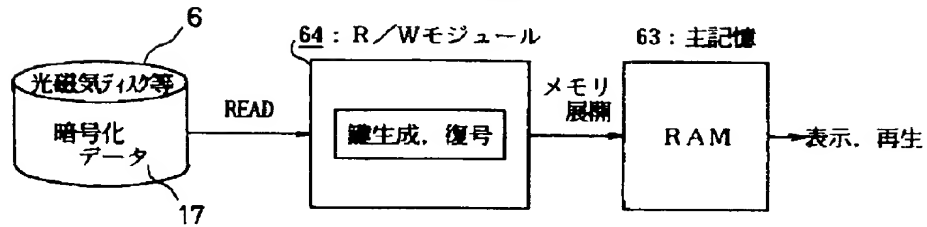
(c) ユーザ計算機でのソフトウェアの実行説明図



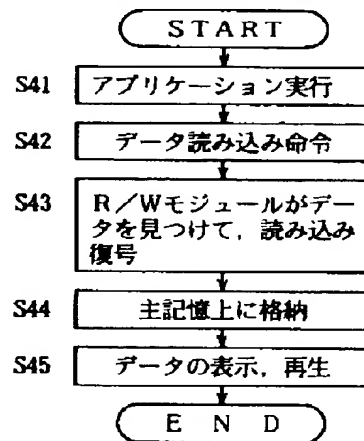
【図10】

本発明のデータの場合の説明図

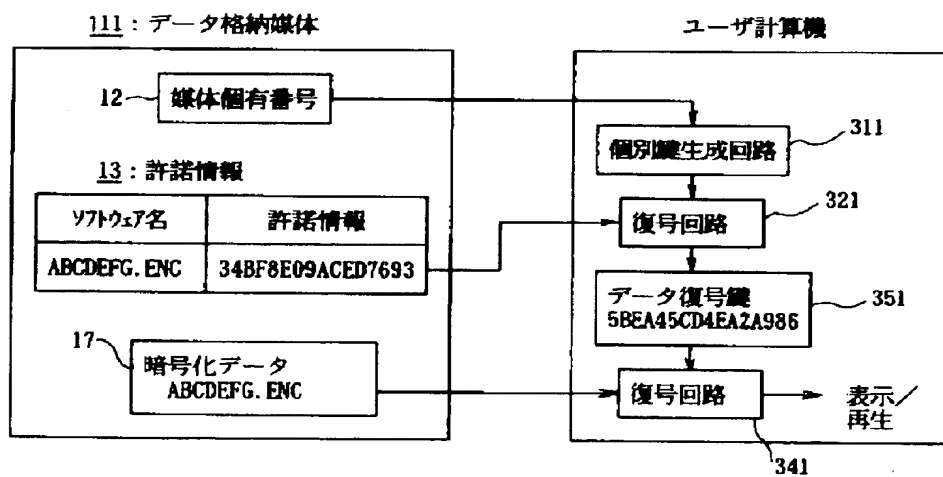
(a) 全体構成図



(b) 動作フローチャート

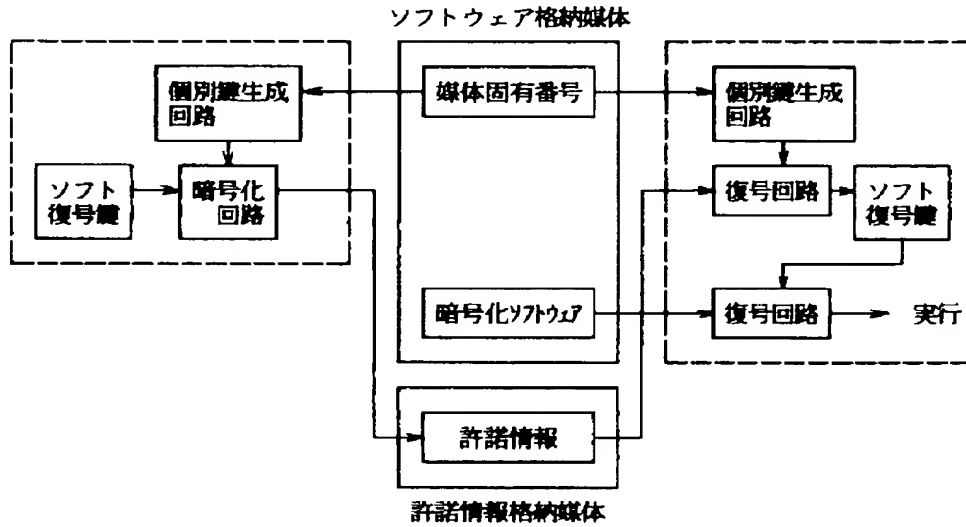


(c) ユーザ計算機でのデータの表示/再生説明図



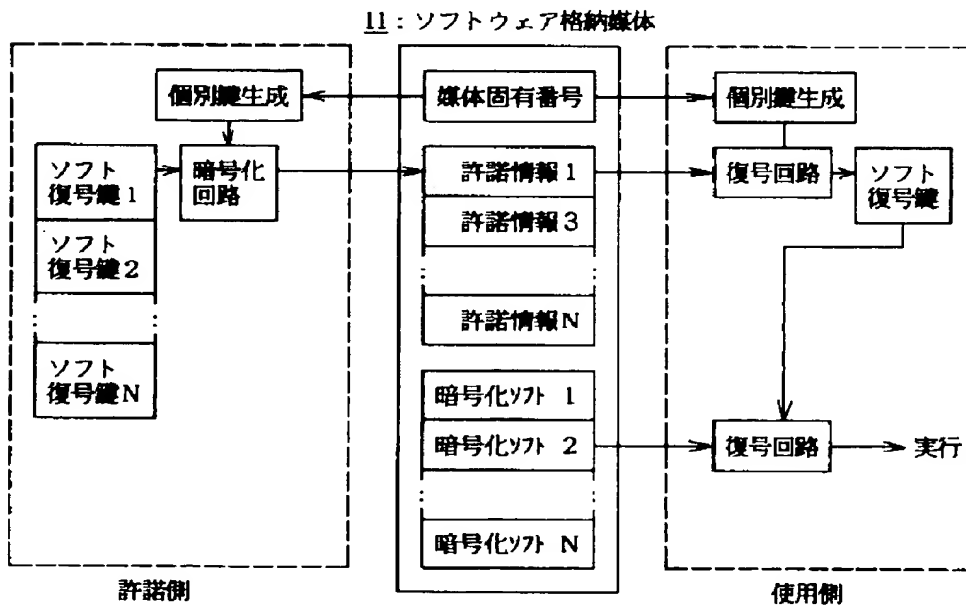
【図12】

本発明の許諾情報を他の格納媒体に格納する場合の例



【図13】

本発明の複数のソフトを1枚の媒体に格納する場合の説明図



【図14】

従来技術の説明図

